

## ◆Environment for All 運動とは

Environment for All 運動とは「私たちは森と水を守っていきます」をキャッチフレーズに、三洋労組結成40周年を契機として労使で取り組みを開始した「社員・組合員がボランティアとして参加できる社会貢献プログラム」である。酸性雨、オゾン層の破壊、森林などの資源の枯渇など、21世紀に向けて地球規模の環境問題がクローズアップされている中、それらの問題をテーマに国際的な視



「サラワク」ホームステイ先のロングハウス



「サラワク」現地の人と涙の別れ

野で学び、それぞれの地域で何が必要か、どんな運動が展開できるかを考え、それを実践することで、具体的な社会貢献を果たしていく。そんな活動の第一弾として、1999年より中央ボランティア推進委員会が主導で実施する海外ワークキャンプボランティアがスタートした。

## ◆海外ワークキャンプボランティアの実施

このワークキャンプは、ボルネオ島にあるマレーシア・サラワク州で、先住民のイバン族が暮らす共同住居（ロングハウス）にホームステイをしながら、水供給システム（簡易水道システム）を現地の人たちと一緒に設置するという活動であり、これまで1999年から2004年までの6年間で、5ヶ所のロングハウスにこのシステムを設置し、同

時に現地の人たちの交流を深めてきた。ワークキャンプの実施にあたっては、国内NPO団体のアジアボランティアセンターにコーディネートしてもらいながら、現地NPO団体とも協力し独自の活動として作り上げてきた。

三洋労組からは、水供給システムの費用を拠出するとともに、各支部からの実行委員と一般公募によって参加したメンバーを派遣することで、海外で得た経験や味わった感動を広く支部や地域で展開してもらうリーダー育成に努めてきた。

私が参加した、第5次ワークキャンプ（2004年10月10日～18日）の実施場所「ルマ（家の意味）・スナン（村長さんの名前）」は、16世帯130人くらいが暮らす小さなコミュニティである。ガソリンによる発電機があり電気を使うことができるから電化製品は結構揃っており、テレビや冷蔵庫を持っている家庭もある。



「サラワク」配管作業



「サラワク」水道管から水がふれだす

る。石油コンロも揃っている。でも、そこに水道がない。各家庭には雨水タンクが設置されているが水量は限られており、女性が大きなポリバケツを持って近くの川に何回も水を汲みに行く。ここに簡易水道を設置するのが私たちの任務である。

水道の仕組みは簡単であり、ロングハウスの近くの高台に貯水タンクを設置し、近くの川からガソリンを動力源とした揚水ポンプで水を引き上げ、貯水タンクに水を溜める。貯水タンクから各家庭まではパイプで配管されており、蛇口をひねれば高

## ■すくらむトライ

### 労働組合の社会貢献活動事例 ⑬

三洋電機労働組合・社会政策センター・中央執行委員／櫻井俊之

# 「Environment for All (みんなの環境) 運動

## 「私たちは森と水を守っていきます」の推進

低差により水が供給される仕組みである。私たちがそこを訪れたときには、貯水タンクは完成しており、作業としては揚水ポンプを設置するポンプ小屋を建てて、そこにポンプを設置する作業や、貯水タンクから各家庭までのパイプを配管する作業であった。

現地の人たちの作業は、とりあえず作ってみて問題があれば後から修正するというアバウトなやり方であり、計画して作業を進める日本人からみると、「こんなんで出来上がるのかな」と心配になった。しかしながらロングハウスを自分たちで建てる人たちであり、出稼などで大工仕事もしているプロであることから、ほとんど作業は進んでいく。そして現地でのホームステイ最終日の朝、待ちに待った水道の開通式では、村長が家の前の蛇口をひねり、ザーッと水が出てきた。「やったー!!」とメンバーたちの声上がり、ロングハウスの住民から大きな拍手が沸き起こる。「来て良かった」「完成して良かった」と心から思った。



「三洋の森」さあ、これから作業だ!

回の人的派遣を行い、延べ130人が参加することで一定の成果を上げてきた海外ワークキャンプであったが、もっとEnvironment for All 運動を地球環境問題に対する取り組みに近づけ、また多くの人に参加してもらいたいとの想いから、2005年からは場所を国内へ移し「森と水を守る」新たな森林保全活動へと転換した。

山の木々がほんのりと色づきはじめた10月6日、群馬県・倉沢村（現高崎市）にある鳥淵（うづち）県有林の一角を「三洋の森」として県から森林保全の活動場所として許諾を受け、国内でのワークキャンプが始まった。鎌を使っての下草刈りやツル切りを中心に森林保全活動を行う

この取り組みに、「地球環境を自らの手で守りたい」「ボランティア活動に興味がある」と全国から集った36人の参加者とスタッフを含め総勢56人が、この作業を通じて心地よい汗を流した。

### ◆これからの活動

1999年に第1次海外ワークキャンプがスタートして7年が経過したが、全くの手探り状態でスタートし現在まで進めてきた。特に、昨年からは国内での森林保全活動に転換したこともあり、海外で現地の人たちと共同生活を行うことで得ることができた感動に対し、どこまで達成感や感動を感じてもらおうことができるか非常に不安であった。しかし、いざふたを開けてみると、「大変だったけどすごくやりがいがあった」「水のありがたさ、木材の大切さを知った」



「三洋の森」ツル切り作業

「もっとやりたかった」など多くの声が寄せられ、終了オリエンテーションでは涙を流す参加者もいた。今後は、この「三洋の森」ワークキャンプの参加対象を家族まで広げ、次代の子供たちに対する環境問題への啓蒙にもつなげていきたいと考えている。そして、各地区のリーダーを中心に独自に工夫された地区版 Environment for All 活動をしっかりと根付かせ、環境保全に対するマインドが全社員、組合員の心の中に芽生えるようにしていきたいと思つた。



設置された「三洋の森」の看板



「三洋の森」下草刈り作業中

## ◆森林保全活動への転換

1999年から2004年まで4